



歓迎のあいさつをするスパルタ市の子どもたち

甘く 楽しく 心をとろけさせる

思い出と人生でありますように
古い伝統の中で

未来の子供たちが笑う

そして 時代の共通語が行き交う

ギリシア語 英語

子供たちは語ることをやめない
輪はどんどんひろがっていく

子供たちへ

未来へと

時は未来へと流れて行き

現在は偉大な過去となる

別れは思い出となった

硬貨の交換 笑顔

子供たちは大人の概念を変えた

硬貨は品物になる

しかし 彼等の硬貨は

二度と姿を変えはしない

心に残る思い出をよびます

鍵になった

時の流れは速くなり

情景はスローモーションとなって

別れという写真に昇華し

変わることはない

涙は夢を呼び覚まし

夢は世界を駆けめぐる

三十七度の橋をわたって

オーストラリア

ロンドン パリ ジュネーブ

ロスアンジェルス

中国

そして 夢は彼等によって

いつの日か 実現されるだらう

長い長い

夢と思いの織りなす

物語のはじまりである

昭和六十二年 棚倉町・スパルタ
市、姉妹都市締結一周年を記念し、中
学生十四名を伴い表敬訪問のおり記す
(棚倉町立棚倉中学校長)

新任時代を思う

菊地 美江



今年の八月、幼稚園新採用教員研修
会のお手伝いをし若い先生方に接して、
ふと、自分の新任時代を思った。

三十数年前のことであるが、鮮やか
に浮んで来るのは、連続する悩みと挫
折の数々である。

子どもたちはなついてくれるだろう
か、という初歩的な心配は、入園一日
目で、どこかへ飛んでしまった。解決
したのではなく、それ以上の悩みが
どつと押し寄せて来たからである。

園児は、園庭や室内で入り乱れて遊
ぶ。教師は、全園児と一緒に遊び、見
守り、援助をする。あたりまえである
が、新任者にとっては常に先輩教師の
目に触れ緊張のしどおしである。園児
の降園後、職員室での何気ない先輩の
一言にも身の縮む思いだった。当時、
私と同じ新任の教員がもう一人いたが、

ともすれば、比較の対象となる。ピア
ノを弾いても、絵を描いても比べもの
にならないほど私は下手であった。
「あ、駄目だ、私には向いていない」
「明日辞めようか、今週いつぱいで辞
めようか」と毎日悩んだ。

しかし、辞表を出す勇氣もなく、く
よくよと悩み、思い余って大学時代の
恩師に長々と手紙を書いた。時には、
手紙では足りず、御自宅まで押し掛け
て悩みを聴いていただいた。

ある日、自分の未熟さを棚にあげ、
不満を綿々と訴えて、さすがにきまり
が悪くなり「すみません、困った時に
ばかり押し掛けて」と小さくなる私に、
「いいのよ。困った時に、思い出して
くれば、先生は嬉しいわ」とにつこ
りされ、ありがたくて胸が熱くなった。

若い時は、健康を害することは少な
いが、心を病むことは多いように思う。
人は様々で、意志が強く困難にも敢然
と立ち向かって行ける人も大勢いるが、
心弱く病む者もいる。悩みを打ち明け
ると、理路整然と指導してくださる方
がいる。頂いた助言は、非の打ち所が
ないが、病める者は、自分の欠点や不
勉強、努力不足を十分承知で悩むので
ある。教科書に載せたいような立派な
指導や激励が、逆に又、重荷になるこ
ともある。私の悩みや愚痴を、ただ
黙って聴いて、大きく包んで下さった
恩師に今でも深く感謝している。
何事も私よりもよくできた同期の方